



小 / 理科 / 6年 / 物質とエネルギー /  
物の燃え方と空気 / 理解シート

## せっかいすい せっかいせき 石灰水と石灰石は、何からできているの



石灰水が二酸化炭素を吸うと、石灰石（炭酸カルシウム）と同じ成分になるのさ。

石灰水は、二酸化炭素を吸って、炭酸カルシウム（石灰石）をつくる

石灰水は、水酸化カルシウム（消石灰ともよぶ）を水にとかしてつくった、水と同じとう明な液体です。二酸化炭素を吸収しやすく、二酸化炭素と化学変化を起こして、水にとけない炭酸カルシウムというものができます。このため、二酸化炭素があると、とう明な石灰水が、できた白い炭酸カルシウムのため白くにごるので、二酸化炭素があるかどうかを調べるのに利用されます。

石灰石（炭酸カルシウム）は、酸にとけて、二酸化炭素を出す

炭酸カルシウムは、貝がら、卵のから、動物の骨、サンゴの骨などをつくっているおもな成分で、石灰石や石灰岩のおもな成分でもあります。

石灰石や石灰岩は、おもに、大昔のサンゴ、貝類、ウミユリ、からをもつ海の小さい生き物などの死がいが、何層にも積み重なってできてきた、たいせき岩の一種です。化石などが、よくふくまれています。きれいな大理石も、石灰岩のなかまで、よく結晶ができたものなのです。

石灰岩は、二酸化炭素がとけた水にとけやすく、しょう乳どうが多い地方は、石灰岩層で、雨水と二酸化炭素のはたらきで岩がとかされ、しょう乳どうができます。

炭酸カルシウム（石灰岩、貝がら、卵のから、骨など）は、塩酸などの溶液に入ると、二酸化炭素のあわを出しながらとけます。

白くにごった石灰水を置いておくと、底に白くたまるのは炭酸カルシウムなのね。

